

くに流れてゐる。印度あたりの道路工事を見る様な施工法であるが彼等は之でよいのだ立派な路面をうる事が出来るのだと自負の言葉を出す様な國民である。

ロンドンの冬は暖い。東京で春秋に着る薄いシャツで通して寒さを感じない。中部地方で雪を見てゐるが、エチンバラやグラスゴウには雪がなく草が緑を保つてゐる。

ロンドンに於て酷暑と酷寒の月の平均気温の差が二二度であり東京ではそれが四〇度である。氣象作用のうち

温氣の差が極めて大きい。雨量が多く又湿度が最大になるのは東京では酷暑に起るがロンドンでは冬に起る。之等の氣象作用の影響が土木殊に道路工事に及ぼす程度は極めて著しきものと思はれる。僕が先に土木試験所報告第十八號に、鋪装コンクリート工に及ぼす氣象作用の影響を發表したが今までに調べた各都市の氣象作用を列記して注意を喚起しておきたかつた。

## 幸 橋 物 語

五 十 子 恭 三

『プロローグ』

この物語は既に報知新聞の地方版に掲載されたものであるが、或人の勧誘もだし難くこゝに再録する。困苦しい技術雑誌にこんな風の記事も悪くはないだらうし、かつて本誌上で批評のあつた橋梁の出事上つた姿を見て頂くことも無意味では無からうと思ふからである。

いつの頃であつたか、無論われわれの生れない前のことである。福井の町には大小を落し差しにした土がぶらついでゐた時代と思へばいい。足羽川の流は狭く廣くうねうね曲つてゆるい歩みを續けてゐた。この邊ではひどく細くなつてとても深い淵をこしらへてゐた。兩岸は高い崖で大きな木が茂り水は岸の岩にあたつて渦をまいてゐた。そんな時代には無論橋なんかは無く、年老いた元氣のいい爺さんが竿さす渡し船が人間を彼岸に渡してくれる唯一つの設備であつた。士も乗る、町人も乗る、百姓も乗れば鳥追の女も乗る、鼻唄まじりに爺さんが竿さす渡し船はおよそのどかなものであつた。

それはひどい大雨のあつた幾日か後のことであつた。長い間の川止めに困つてゐた多くの士や町人たちは久しぶりに出る渡船にわれがちに乗つた。だが川水はまだ多かつたし瀬は早かつた。何年となくこゝで渡船に竿さしてゐた爺

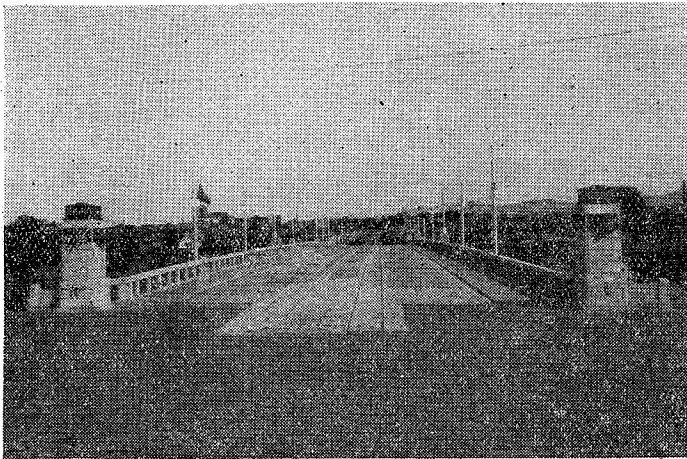
さんも、その日はどうしたわけか日頃手馴れた船を思ふままに動かすことが出来なかつた。小さな渡船は一ぱいお客を載せたまゝアツと思ふ間に渦巻く淵におし流されてしまつた。

船も人も流れの底深く引き入れられて板ぎれ一つも浮びは出なかつた。それが幾日かたつた。誰いふともなく月のさえた晩にはあの淵の上に粹な女の姿があらはれると傳はつた。またのどかな鼻唄の聲がきこえるとも噂がたつた。或人は浮ばれない鳥追の女のまほろしだともいつた。また渡守の爺さんの聲だともいつた。

雪解水が流れるようになれば岸の柳は芽をふき、やがて淵の上の櫻はきれいに咲いた。然しあの鳥追の女のまほろしや渡守の爺さんの唄聲は消えなかつた。そこで誰がいひ出したともなく、はかなく水の泡と消えた人たちの靈をなぐさめるために小さな石の地藏様が淵の上に安置された町の人たちはいつかそれを船場地蔵とよび、風の朝雨の夕も參詣の人の絶える時としては無かつた。

常ならぬものは飛鳥川の流れのみかは、足羽川の流ともかなり變遷常なきものであつた。昨日の淵は今日の瀬何千何萬年の昔から人間はどんなにこの行儀の悪い川といふものゝために苦しめられてきたことだらう。なにがし川の人程ぢやないが如何に多くの人間の生命がこのために失はれ、如何に多くの人間の財物がこのために荒されたか知れない。

だから足羽川といふ暴君とその邊の人たちは如何に惡戰苦闘をして來たことだらう。しかし人間の智恵もだん／＼進んで來た、そしてだんだん暴君の牙城に迫つて行つた。足羽川の改修といふのが先



づそれだ。狭いところは擴げられ、廣いところはせばめられ、曲つたところは直されて川の形がととのへられてきた。それは人間が自然を征服したといふより、恐しい川の流に暴れてもらはないためにいゝ座敷を造つてやつたようなものである。

だからさしもの暴君も居心地のいゝ新しい別荘——といへば聞えがいが堅固な堤防の内に閉じこめられてしまつたのである。

かつて幾百人かの生靈を奪つた魔の淵も跡かたもなく埋められて、靜かなせうらぎには洗濯女の艶な姿が映つてゐる。渡船はどこへいつたか思ひ出す人さへない。幅三間長さ七十五間の壮大な橋梁が虹のように大川を二またぎ

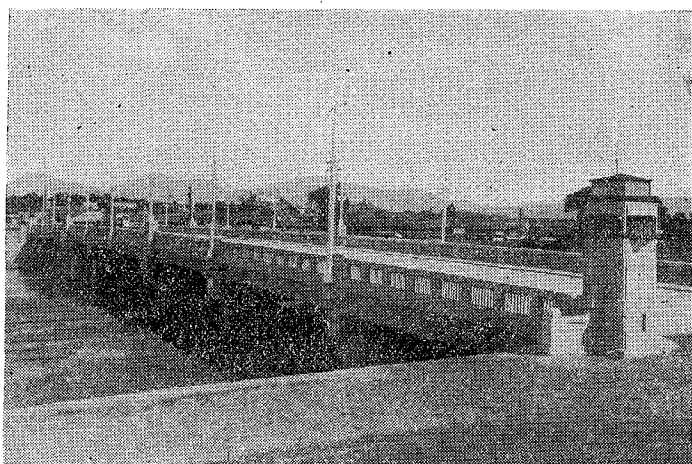
にしてしまつた。如何なる大水にも、小ゆるぎだになく渦

卷く濁流の中に王者の如く立つてゐる。

新橋、幸橋よ、人々は如何にこの  
一大工事を喜悅をもつて迎へたこと  
であらう。幾百幾千年の不便がこゝ  
に初めて除かれ川の南と北と彼方と  
此方との境がなくなつたのである。  
そして新しい堤の上には若い櫻の木  
が植えられ、やはらかな芝生は自然  
のしとねを作つた。こゝに小兒は嬉  
々として遊び若者は甘き戀をさゝ  
やく。

### 三

タクシード、ペープメントだ、ブ  
ラタナスの並木だ。北陸道の真中に  
安閑としてゐた福井の町にも一九三  
〇年の潮は押寄せずにはゐなかつた。道路擴張橋梁架換な



んていふ聲が羽二重とそろばんを握ることよりほかに知ら  
なかつた人達の口から叫ばれてきたの  
も時勢だ。

國道改修工事が九十萬圓の豫算をも  
つて可決せられたのはもう四年前だ、  
そして昭和三年残雪なほ消えやらぬ春  
三月幸橋架換の工事が先づ起された。  
一ヶ年の賄が僅か五百萬圓足らずの福  
井縣にとつては九十萬圓の工事はかな  
り大きいものに違ひなかつた。その上  
請負者は橋梁工事には殆んど經驗はな  
いし、縣の技術員にもあゝした工事に  
經驗のあるものは少かつたようだが  
ら、その工程はあまりはかばかしいも  
のではなかつた。

花咲きやがて散り失せて二度目の春  
を送り夏を送へたが工事はあまり進捗の跡を見せなかつ

た。無論その間には洪水の被害もあり、悪い地盤につぶつ  
かつたこともしばしばあつた。しかし計らずも橋脚工事中  
地下數十尺のところから石の地藏様を發掘したといふ珍事  
が起つた。従業員一同の喜び一方ならず、早速御堂を建て  
て安置し祀つたところ降り續いた雨もからりと晴れ工事も  
支障なくどん／＼進んで忽ちあらたかな靈驗があらはれた  
んだから有難い。

斯して北陸第一の橋梁新しい幸橋が福井市の中央足羽川  
に壯麗な姿を横たへることになつた。その幅九間長さ七十  
五間、工費二十五萬圓、従事せる人員二萬三千、混凝土二  
千六百七十立方尺、鐵筋四百題、やがて道路改修その功  
を竣れば輕快な路面電車が走り、スマートなバスが絶間な

くゆき交ふようにならう。新しい幸橋の活動が初まるのは  
それからである。春の花、夏の涼み、秋の月、町の人達は  
先づこの橋を愛するだらう。

福井市の繁盛はこの橋を中心として擴がる。月明き夜半、  
フェルト草履とセーラーパンツとがこの橋の高欄にもたれ  
て戀をさ／＼やくかも知れない。彼等には渡し船もなく鳥追  
の女もなくまして年老ひし渡し守を思ひ出すすがもな  
い。昔を知り昔を語るものはかの石の像、船場地藏があら  
せられるのみだ、モダンな橋梁とグロテスクな地藏とはあ  
まりにいゝ對象だ。この新しい幸橋の命數がつき石地藏が  
再び水中に没するのは何年後か、それより先づ新橋の前途  
に幸あれと祈る。